

宮坂建設新社屋が着工

来年4月完成「新たな時代へ転換期」

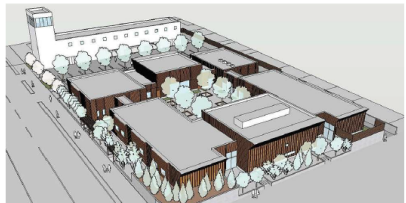
宮坂建設工業（宮坂寿文社長）は17日午前、帯広市西13南14に移転新築する本社新築の地鎮祭を行った。新社屋の完成は来年4月を予定している。

現本社（同市西4南8）は西3・9周辺地区第1種市街地再開発事業の一環で取り壊しが決まっていた。移転先は社有地で、本社は



宮坂建設工業（宮坂寿文社長）は17日午前、帯広市西13南14に移転新築する本社新築の地鎮祭を行った。新社屋の完成は来年4月を予定している。

現本社（同市西4南8）は西3・9周辺地区第1種市街地再開発事業の一環で取り壊しが決まっていた。移転先は社有地で、本社は



新社屋のイメージ図
（宮坂建設工業提供）

地鎮祭では設計者の青土（音重）の町山一郎代表が鎌入れ、宮坂社長がくわ入れし、宮坂建設工業の小林俊昭会長がすき入れを行った。

宮坂社長は「（今は）今後の新たな時代に向けた転換期。社員一同、本業にまい進したい」と述べていた。

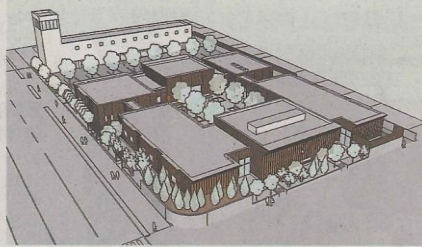
（本田龍之介）

くわ入れする宮坂社長（17日午前11時20分ごろ）

宮坂建設新社屋

来年4月に完成
建設予定地で地鎮祭

宮坂建設工業（帯広）は17日、移転新築する新社屋の地鎮祭を帯広市西13南14の建設予定地で行った。来年4月に完成する予定。



宮坂建設工業の新社屋の完成予想図

新社屋は社有地に建設し、木造平屋約1500平方メートル。自然光を採り入れ風が通り抜けられる構造とし、社員が働きやすい職場環境を目指す。鉄筋コンクリート2階建て延べ約720平方メートルの防災センター棟を併設し、非常用発電機や防災用品を備える。センター棟には物見塔を設け、災害時のインフラ管理などに活用する。

地鎮祭には社員ら約20人が出席。宮坂寿文社長らがくわ入れを行った後、玉串をささげ、工事の安全を祈った。宮坂社長は「新たな新社屋は地域の期待となっている。地域にとけこむような建物にしたい」と話した。

（水野薫）

2020. 6. 19 北海道建設新聞

来春の無事完成願う

宮坂建設工業 新社屋地鎮祭

【帯広】宮坂建設工業は17日、新社屋の地鎮祭を開き、関係者ら15人が工事の安全を願った。

帯広市の西3・9周辺地区第一種市街地再開発事業に伴い、帯広市西13条南14丁目1の2に移転新築する。新社屋はW造、

平屋 延べ1494平方
 ㎡、隣接する防災センタ
 ー棟はRC造、2階、延
 べ720平方㎡の規模。
 設計は青土（本社・音
 更）、施工は自社で手掛
 ける。

7月に着工し、完成は
 2021年4月15日、新



クワを入れる宮坂社長

社屋での営業開始は同5月からを予定している。青土の町山一郎社長がカマ、登寿ホールディングスの宮坂寿文社長がクワ、宮坂建設工業の小林俊昭会長がスキを入れ

富坂社長は一回で4代目の社屋。新しい歴史に向けて、この着工が転換期となる。社員一同、気を引き締めて本業にまい進したい」と述べた。

2020. 6. 19 北海道通信

【帯広発】宮坂建設工業
(株)（帯広、宮坂寿文社長）
の社屋新築工事の地鎮祭が

職員がリラックスできるよう
うコミュニケーションスペースを
充実させる。

期は7月1日から来年4月15日までを予定している。

17日、帯広市内の閑静な住宅街にある建設地で執り行われた。宮坂社長や小林俊

災害時の活動拠点となる
防災センターはRC造2階
719・84平方メートル。各種非

どのあと、鉄入の儀。設計を務める(株)青土の町山一郎社長が斎鏝、宮坂社長が斎

宮坂建設工業 社屋新築地鎮祭

地域の安全確保へ誓い新た

層のまい進を誓った。
移転新築する新社屋は、

常用の備蓄倉庫を設け、非常用発電機を設置。停電時

た。鋤、小林会長が蕭鋤を行つ

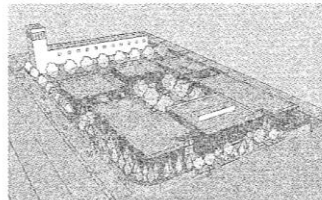
本社屋と防災センターの2棟で構成。本社屋は木造平屋1493・9平方メートル。開

には地域住民の携帯電話等の充電サービスを提供できる体制を整える。

神事のあと、宮坂社長は、同社の歴史を振り返りながら「歴史は刻むもので



娘とともに鋤入れを行
う宮坂社長



新社会完成イメージⅡ宮
坂建設工業提供Ⅱ

の。これからの新しい歴史から、一層気を引き締めてに向けて、地域の期待がか事業にまい進していく」と決意を語った。